

第 32 回（通算 150 回）全経簿記検定試験 上級 的中と講評

商業簿記・会計学

科 目		第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
商業簿記		決算三勘定	連結会計	損益計算書
会 計 学	第 1 問	正誤問題 的中	正誤問題	正誤問題
	第 2 問	理論(実現主義と取得原価主義)	理論(外貨換算会計)	理論(包括主義と当期業績主義における損益計算書の区分)
	第 3 問	キャッシュ・フロー計算書 的中	棚卸資産(切放法と洗替法)	退職給付会計

講評

〔商業簿記〕

商業簿記は決算整理事項から決算整理後残高試算表を作成させる問題が出題されました。会社法によるB/Sの資本の部の変更及びP/L末尾の変更を考慮しての出題と思われます。

各決算整理事項については、有価証券、貸倒引当金、商品の評価、自己株式、固定資産と典型的な論点が出題され、前回出題された消費税は出題されませんでした。あえて挙げるとすれば、期首の商品に係る繰延税金資産の解消と関連会社株式について時価がある場合には実価法を適用しないことの読み取りがやや難しいものでした。それ以外は平易な問題でしたので、高得点が狙える問題でした。

〔会計学〕

会計学の第1問の正誤問題は全般的に易しい問題が出題されました。全般的に典型的な論点であり、10問中、7問または8問は正答していただきたかったところです。

第2問は資産会計全般からの理論問題でした。資産の取得原価、減価償却方法、固定資産の資金留保効果、低価法そして、減損会計からの出題でした。減損会計は2年連続の出題でしたが、他の論点と同様に難易度は高くはなく、正答していただきたかったところです。

第3問はキャッシュ・フロー計算書の作成問題と記述問題でした。キャッシュ・フロー計算書については、過去に出題された問題とほぼ類似の問題であり確実に正解していただきたいところです。

記述問題に関しては、結論と理由を筋立てて書いていけば部分点がもらえると思いますので、気にしすぎる必要はないと思います。

総括すると今回の商業簿記・会計学の問題は全体的に易しかったので、両科目とも7割をとりやすい良問であったと思われます。

第 32 回（第 150 回）全経簿記検定試験 上級 的中と講評

工業簿記・原価計算

科 目	第 1 予 想	第 2 予 想	第 3 予 想
工業簿記	工程別総合原価計算	部門別個別原価計算	組別総合原価計算
原価計算	業務執行意思決定 +品質原価計算 的中	CVP分析 的中 +直接原価計算	設備投資意思決定

講評

〔工業簿記〕

工業簿記はなんと本社工場会計と個別原価計算における仕損の仕訳問題と理論問題が出題されました。本社工場会計は近年の出題が無かったため、驚かれた方も多いと思います。

しかし、問題文のボリュームは多くなく(未達取引 2 つと未実現利益の消去のみ)、本支店会計の知識を使えば、部分点はとれたのではないかと思います。未実現利益の消去を正確に、そして段階的に行えるかがポイントでした。

一方、仕損の問題に関しては、総合問題形式ではなく個別問題が出題されました。こちらは基本的な問題でしたので確実に得点していただきたかったところです。

仕損の問題で確実に点数を取って、あとは、本社工場会計でどれだけ取れるかがポイントでした。

〔原価計算〕

原価計算は、CVP分析、業務執行に係る意思決定及び品質原価計算からの出題でした。

まず、CVP分析は損益分岐点、経営レバレッジ係数が出題されましたが、いずれも基本的な問題でした。次に業務執行に係る意思決定は、直接労務費が月給制であったため固定費となり、計算上考慮しないことに気付けたかどうかポイントでした。

品質原価計算については品質原価の 4 分類と各原価の計算問題でした。弊社の予想にもあげていたので、解けた方も多いと思いますが、学習していなかった方には手が出ない論点ではなかったかと思います。

総括すると今回の工業簿記・原価計算の問題は、受験生の間で点差が開きやすい問題であったものの、時間的に余裕があったため、いかに正確に解いて点数を積み上げていくかが可否の分かれ目であったと思います。